
TATEYAMA

NOTAM

‘96-Vol.3

Hummingbird P.G.C Communication Note.

◆特集！何処よりも早くお届けする！！

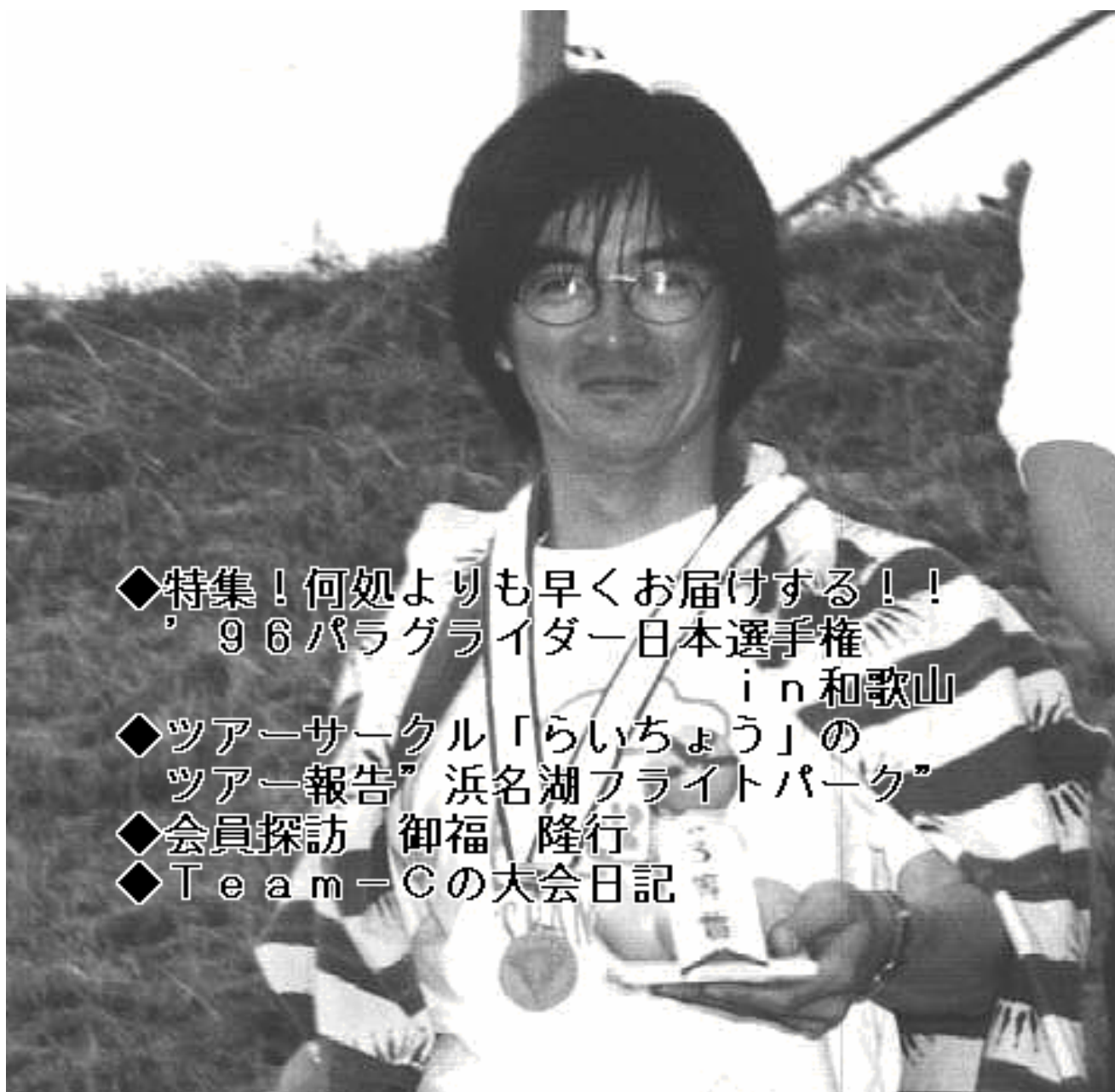
’96パラグライダー日本選手権

in 和歌山

◆ツアーサークル「らいちょう」の
ツアー報告”浜名湖フライトパーク”

◆会員探訪 御福 隆行

◆Team-Cの大会日記



ツアーサークル「らいちょう」のツアー報告

by 井上 文一

日時：9月14日（土）～16日（月）

目的地：浜名湖フライトパーク（静岡県）

参加者：中谷・鎌仲・村上・富田・高松・福原・三島・清水（清）・津田・坂田・井上（11名）

ツアーサークル「らいちょう」では、今年2月王子が岳、5月尾神岳、獅子吼高原、7月富士見パノラマ、8月IOXアローザスキー場、9月獅子吼高原と行き、今年7回目のツアーはうなぎの美味しい浜名湖へ出掛けた。

第1日目、朝降っていた雨もすっかり上がり、浜名湖に近づくにつれ晴れてきた。富山を出発して5時間程でエリアに到着した。エリアは、浜名湖の北側に位置し、400mの尾根が第1TOを中心左右に2Km程の幅がありまたその先にはクロカン可能な尾根も延びている。我々は早速事務所に行き連絡していたイントラの森下さんに挨拶し、注意事項等を聞いて入山チェック。その後第2TOまで車で上がり、残り100mは4人ずつモノラックに乗って第1TOへ登った。眼下には浜名湖が広がりその向こうには太平洋が見渡せる素晴らしい眺めであった。

第1TOに立つと風は右（西）から吹いてきており、我々の感じでは飛べそうな気がしたが、イントラは今日はだめだとのこと。（ツアーの鉄則その1－地元の人が飛ばない時は飛ばない）今日のフライトはあきらめ観光に切り替え、浜名湖遊覧船に乗ってのんびりと楽しんだ。宿へは早めに入り、またいつもの宴会が始まった。明日のフライトに備え早めに切り上げ寝床に入った。

第2日目、雲は多めであったがエリアに着いた頃には良い天気になってきた。モノラックに乗って順次第1TOへ登った。風は3～4mのアゲインストである。TOは10m四方の広さしかなく、また馬の背のような形で左右が落ち込んでいる。ちょっとしたプレッシャーである。

11時前地元B級生がサーマルが出る前に慌ててテイクオフして行った。いよいよ我々の番である。だんだん風も強くなってきて、吹き流しも尻を振り出した。6人が順次テイクオフ、一回で出る人、失敗してやり直しでやっと出ていく人それぞれであった。しばらくして3人テイクオフ。しかし、2人は出なかった。（ツアーの鉄則その2－自分の判断で飛ばないと決めた時は無理をしない）

浜名湖からの風は素直でサーマルはあちこちにあり、また雲が近づくと程良い吸い上げがあったりして、どれだけでも楽しめた。高度はあまり獲得できなかったが、どれだけでも飛んでおれるという感じであった。LDはみかん畑の真ん中にあり、手前のところがシンク帯であるので高く入るよう聞いていたし、また、事前に見てあったので高く入りなんなくランディング。

（ツアーの鉄則その3－LDは必ず見よ！）

みんな40分～1時間30分程のフライトであった。しかし、一人まだ悠々と飛んでいる者がいた。そう、長時間フライトと言えば「高松さん」である。今日はうなぎを食べに行くことになっているので無線で降りるように連絡。30分程してやっとランディング。なんと初めてのエリアで4時間30分のフライトであった。（まだ飛べた）みんなにこにこして満足感でいっぱいの顔でランディングしてきた。新しいエリアを征服したかのようである。イントラは「もう帰るの？これからアーベントだよ。」と言っていたが、うなぎ屋へ直行。しかし、地元の人が行く店と聞いて行ったが案の定行列である。しばらく待って、ようやくテーブルに付けた。うなぎは勿論天麩羅も刺身もおいしかった。生ビールを飲みながら、今日のフライトの話で持ちきりであった。

第3日目、今日も良い天気である。皆さん日頃の行いが良いのであろう。今日は帰らなければならないので1時半までフリーとした。みんな1本ずつフライトして終わった。このエリアならまた来てもいいなと思った。全員怪我もなく無事富山へ帰った。



— 紀ノ川の回さない闘い！ —

Report&Phot / K.Fujino

今年も日本選手権の季節？がやって来た。今年は参加選手69名、エリアは和歌山県の紀の川フライトパーク。11月16日（土）～23日（土）の全日程8日間で開催され日本選手権者を目指して闘いが繰り広げられた。当クラブからも日本選手権者返り咲きを狙う本命中の本命である扇沢選手と、昨年に引き続きラッキー？で出場権を獲得（石川県代表）した私（藤野）の2名が参加した。今回は、私が直接参加し、見て、聞いて、実感した日本選手権の模様をどの雑誌よりも早く、皆さんに特集してお届けする！！

◆エリア紹介

今回、日本選手権が開催されるエリアは、パラワールド等でも掲載された事があるので御存じの方も多いと思うが、簡単に紹介しておこう。紀の川フライトパークは、和歌山県の北部にある那賀郡打田町にある。名前の通り、エリアは和歌山を流れる紀の川に沿って続く山並みにあり、ランディングは紀の川の河原を利用している。ハングでは古くから飛ばれている歴史のあるエリアであり、ハングの日本選手権も数回開催されている。通常は高度差400m位の寺山テイクオフから飛ぶのだが、日本選手権やポイント大会では高度差600mの龍門テイクオフが使用された。先程も述べたようにハングの飛行が盛んなエリアだけに、テイクオフも基本的にハングのランチャーみたいに急に切り立った崖になっていて少々ビビるテイクオフである。紀の川が和歌山県の東西を流れるので、基本的には西風で飛ぶエリアだが、条件が良いのはやや強めの北西風である。和歌山と言えば「みかん」であるが、ここも廻りは果樹園だらけで山沈は絶対に許されないスリル？溢れるエリアだ。

◆11月16日（土）激論の選手ミーティング！！

私は朝6時に礪波ICまで戻って、待ち合わせした扇沢氏を拾ってエリアへ向かった。空はどんよりとした、言わば北陸の冬特有の空で時折あらがフロントガラスをけたたましい音を立てて殴りつける。そんな事にはお構いなしに、私は久し振りの扇沢氏と談笑しながら快調に高速を走る。名神に乗るころには青空が広がり、気分良く現地入した。

エリアに着いてまず受付を済ませ、飛べそうなので準備を始めた。しかし、風が相当強いらしくテイクオフ出来ないとの事なので、岩井さん（関パラ）やAチームの方々と共に昼食をとった後、パイロン確認に出かけた。川のそばのエリアなので、パイロンには橋が多く使用されており、セクターポイント

を念入りに確認した。

パイロン確認から帰ると、即、機体検査。私のGENESISにサイズが書いてない事が問題になったが、陪審員として現地入りしている半谷氏や扇沢氏らに助けられて事無きを得る。（ぶつぶつ言うんじゃないねえ！F社の専務！JHTCは通ってるんだよ！俺は去年もこれで日選に出たんだ！！）

午後4時30分からは選手ミーティングである。これが荒れに荒れた激論ミーティングになった。まず、緊急ランディングが無い事に対して、がんこおやじこと松原氏が発言。しかも、アウトサイドした場合は紀の川フライトエリアルールに従って罰金5,000円である。我々はフリーフライトに来たんじゃない。日本選手権に来たのだ。安全確保はオフィシャルの義務ではないか？それを選手に押し付けるのは筋違いだ。「エリアの存亡に関する問題」とのオフィシャルの回答に切れた松原氏は、「日本選手権を開催するエリアではない！」とまで言い切った。次に、ピン差しをやらない事に関してもクレームが付き、選手とオフィシャル間に異様な空気が漂ったが、「河原と指定地に降りた場合のみ、補正距離を計測」する事で合意した。

その後は開会式が行われ、例によってJHFの渡部会長の長い挨拶。おまけに「ハンググライダー日本選手権を開催します」と、相変わらず「ハング」思考である。笑うに笑えず困ってしまった。

これで、明日からの日本選手権の舞台は整った。後は良い条件で素晴らしい闘いが繰り広げられるのを待つだけだ。

◆11月17日（日） いきなりキャンセル！

朝目覚めると、天気はあまり良くない。今日は無理だろうと予想しつつエリアに到着。受付を済ませてテイクオフへ上がる。10時から選手ブリーフィングがあり、気象概況の説明。「本日は、冬型の気圧配置が緩んだものの、太平洋側の前線の影響による南風が入り、また、紀の川では奈良盆地からの冷氣が継続的に流れ込み強い接地逆転層が200m付近に発生、日照も期待出来ず大会を行う条件が全く期待出来ない為、午前10時で正式にキャンセル」の発表。気象スタッフにはあの内藤氏。完璧の布陣。しかし、天気はどうにもならない。これで去年の「7本選手権」の記録は保持された！！

◆11月18日（月） 激突！ペネトレーション競争 回さない闘い？！

本日は、朝型まで小雨が残った為午前11時までウェイティングとなった。雨は9時頃には上がり、少しづつ空も明るさを増して来た。予報によると、午後には天気が回復してくる見込みだが、風は強めであろうとの事。11時にテイクオフに上がり、12時30分の選手ミーティングを待つ。この間もテイクオフの風は北北西からコンスタントに5m/s、MAX8m/s入っていた。ダミーが数機出ると、リッジでゲイン出来るがなかなか進まない。時折バックする事もある程で、ゲートオープンするにはまだ早い感じだった。12時30分の選手ミーティングでも同様の事が説明され、もうしばらく様子を見る事になった。状況では、午後1時頃が風のピーク位で、その後は徐々に落ちてくる予想で、高積雲が抜け切らない場合は強めの風が続くとの事。

1時10分にタスク発表。23.5Kmのスピードラン。ゲートオープン1時45分となり、選手は慌ただしく動きまわる。今回の大会のテイクオフは2機広げるのが精一杯なので、昨年のナショナルポイント順位で優先権を有する方法がとられた。2本目以降は前日までの成績順で優先権が与えられる。

今日のタスクは、テイクオフしたらまず西へ2.3Km地点の寺山タンクをデパーチャーに、そこからテイクオフ前の鳥小屋をとり、また西へ向かってメインランディングの横にある竹房橋をとり、もう



ゴールを決め、悠々と帰還する扇澤選手

一度鳥小屋、竹房橋、テイクオフと寺山タンクの間にあるゴルフ場のクラブハウス、竹房橋、そして東へ3.3 Km地点の牛小屋をとって竹房橋がゴール。強めの風に翻弄されながらもシード選手を始めとし次々に選手がテイクオフしていったのは、テイクオフ右側のリッジ帯でゲインさせている。私も25番目位にテイクオフし、同様に高度を稼いでスタートパイロンの寺山タンクを取りに走る。寺山タンクまでは、北西風が強く進めない。GPSを見ると時速2 Km程度で時折0 Kmになったりする。今日は強めの風を想定して全重量91.5 Kgで乗っているのにこの始末。トリムを3 cm伸ばしてアクセルを踏んでやっと時速6 Km位。スタートパイロンまで20分以上かかってしまった。そうこうしてい

るうちにパイロンを撮影してタスクをこなすが移動するスピードが遅いので思うようにタスクを消化出来ない。トップ集団とは1往復以上の差をつけられたまま、午後3時20分頃突然風が死んで上げる事が出来ずに緊急ランディングへ向かった。

結局、今日ゴールしたのは扇澤選手、柏倉選手、前掘選手、安次嶺選手、武尾選手、中村選手、坂本選手らだった。私は12.6 Km地点で降りてしまった。もう少し早く出て、もう少し上げずに行って(力一杯上げて走ってた)時間を短縮していれば、もう少し廻れたか、どっかではまっていた？だろう・・・。

今日のレースの面白い所は、殆どの選手がセンタリングしてない事だ。強風で回せないのもあるかもしれないが、殆どがリッジで勝手に？上がっていつてしまう。こうなると、その時間帯を上手く飛んで、しかも強風でも前に出る機体で飛んだ選手(早く出たシード選手)が有利になり、結果もその通りであった。まるで機体の性能比較をしているようなレースだった。

残念な事故も起きた。強風の吹き抜けて裏にはまって出てこれなくなった松原選手が山沈して怪我をしてしまった。日本選手権を狙う選手が一人減ってしまった。松原選手自身は元気だとの事だが、しばらくは療養しなければならないらしい。怪我だけは注意しなければならないと改めて思った。

余談であるが、今回の競技委員長の片岡さん(ZERO)は、”出し屋”の異名をとるだけの事はあって、選手がスタ沈しそうになるとサササッと寄って来てはライザーとブレークラインを掴み、微妙にコントロールしながらリカバリーしては選手をテイクオフさせてしまう凄い人だ。どんなに傾いても、時には折れてても職人技でグライダーをコントロールして出してしまう。その妙技に「おおーっ」と選手から歓声が上がった程だ。やはりグランドハンドリングは大事だ。心して練習しよう！！

◆11月19日(火) 強風キャンセル フリーフライト日和？

本日は、風が強くなるとの天気予報通り、朝から少しづつ北西風が強くなってきていた。テイクオフでも朝から6 m/sの風が右サイドから入っており、競技が出来る状況ではないとの事でしばしのウェイトिंगとなった。昨日は風が強い中のレースとなり、はっきり言って機体性能(ペネトレーション)の勝負と言った感じだったので、今日もそうなるのかと危惧されたが、結局強風は治まらず午後1時30分にキャンセルの発表。強風と言ってもテイクオフ出来ない程ではないのだが、テイクオフの位置が

悪く困難を極める為の判断である。実際、キャンセルになった後で、フリーフライトした選手もいたし、私も寺山テイクオフまで戻ってテイクオフした。出ると少々風は強めではあるが、昨日よりもずっと動き易い。アクセルだけで十分動けるので、競技が出来ない訳ではなかった日だった。

昨日1本成立しているが、あと1本は最低飛べないと日本選手権自体が成立しないので、残りの4日間に期待するしかない。ただし、天気予報は余り良くない状況で、飛べるとしてもあと1~2本であろうと思う。



競技委員長、“出し屋”の片岡氏

◆11月20日（水） 成立への賭け！10Kmタスク

朝から快晴で、天気は上々だがやっぱり寒い。気圧配置を見ても南西の風が吹くと思われるので、競技が出来るかどうかは？である。エリアでは東の風で、基本的には南西である。放射冷却により接地逆転があるが、今日は日射があるのでとれるだろう。テイクオフに上がると、明らかに下よりも暖かく感じられた。風も南西の左サイドで、今迄で一番弱い。渋いコンディションだろうと思われた。

12時40分までウェイティグの後、タスクが発表された。13.0Kmのスピードランのショートタスクで、渋いコンディションの中での成立に賭けるオフィシャルの博打タスクだ。選手から選抜されたタスクコミッティの仲亀選手は「日選で10Kmタスクは良くない！」との意見を述べたが、状況が状況だけに聞き入れられなかった。タスクは、テイクオフしてから西へ2.3Kmの寺山タンクをデパーチャーに、そこから1.2Km東へ戻ったゴルフ場のクラブハウスをとって、今度は西へ2.3Kmの竹房橋をとってから東へ7Km地点の麻生津橋のゴールパイロンと言う、どれだけ距離が伸ばせるか的なレースである。

13時20分にゲートオープンされ、優先順位の低い選手がゲートになだれ込む。その合間合間を優先順位の高い選手が割り込んでゲートに入る。しかし、上位選手は誰も出ようとしなない。しばしの模様眺めと言うところか？先に出た(私も含め)数人はテイクオフ右側のリッジ帯にある弱いサーマル？でステイする。ちょっとでも外れると一気に高度をロス。粘れるものの上がらない状況に業を煮やした数人は南側のサーマルを期待して走り始めるが、まだ早いのかケも無い状態。私もゴルフ場上空をサーマルを期待してなめるコースを飛んだが、どんどん低くなりデパーチャーもとれずにメインランディングへ降りてしまった。最初に出た連中は全て撃沈。この中には辻選手、松永選手も含まれていて、みんな上空の高層雲に「頑張れ雲よ！」と叫ぶしか術がなかった。

その後、上位選手がテイクオフして一斉に上げはじめた。「げげっ！これはやばい事になった！」と私と辻君、そして一緒に降りた選手達。デパーチャーをとって戻り出す選手もいたものの、コンディションは好転しないまま、みんなランディングに降りて来た。上位選手全てがせいぜいデパーチャーをとって程度の結果であり、その後出た選手もぶっ飛びで終わり、10Kmはおろかミニマムもとれない状態でレースは終了。不成立！

◆11月21日（木） 休養日？早々にキャンセル！

朝から天気は良いのだが、風が悪い。ランディングの風は東で上空は西っぽいのだがテイクオフは南西。それでもせっせと選手をテイクオフに搬送するスタッフの方々には頭が下がる思いではあるが、「何



長島氏と女子1位の遠藤さん。きまってるネ！

も上がらなくてもいいのに」と思うのは私だけではないだろう。今日がダメだったらもう明日・明後日しかない。午前10時の選手ブリーフィングで早々にキャンセルの発表。風は南西から西寄りに変わるものの、上空の風が10m/s以上吹いており弱まらない為だ。みんなで下山。

◆ 11月22日（金）

波乱！トップ総崩れ！日本選手権成立！！

朝はどんより曇っていた。風はそれ程強くないように、北西の風が期待出来た。選手は本部前で9時30

分までウェイティング。いつもは8時30分から登頂するのだが、上で待つ時間が長すぎるとのクレーム？が付いた為らしい。なかなか空が明るくなって来ないので、ウェイティングで良かった。選手は「今日は何としても飛びたい！！」と思っており、何とか良いコンディションになるように祈るような気持ちであった。テイクオフに上がると風は正面（北西）から3m/s位で入っている。しかし、上空は雲で覆われたり晴れたりのくり返し。ダミーが数機出るがみなぶっ飛ぶ。今日はなかなかタイミングが読めないコンディションになりそうだ。

12時にタスク発表。25. 1Kmのスピードラン。タスクはテイクオフした後デパーチャーの5番をとり、7番のゴルフ場、4番の竹房橋、9番の牛舎、3番のJRスクールハウス、8番の鳥小屋、4番の竹房橋を取って12番のゴールと言うものだ。ゲートオープン12時30分だが状況は渋い。ゲートが開いてもなかなか選手が出て行かない。模様眺めの状況がしばらく続き、優先順位の低い選手がチャンスに賭けて出て行く。しばらくテイクオフ前は、女の闘いが繰り広げられた。白川選手、都築選手、遠藤選手の粘り合戦。我々はテイクオフから彼女達の闘いをダミーがわりにタイミングを計る。徐々に上げ出した午後1時頃に選手がゲートに殺到、私は比較的早めに出られたので混雑する前に上げる事が出来た。安全な高度を確保してデパーチャーの5番を取りに走る。楽勝の高度でデパーチャーを取って、7番のクラブハウスへ向かう。ここでテイクオフの左側まで戻って上げ直しながら7番を撮影。さらに高度を稼いで4番の竹房橋へ向かう。少々風が強いが余り沈下しないので強気で行け行けどんどんで進む。4番をとった後は急いで寺山テイクオフ前へ戻るが、次のパイロンが4番から東へ3.3Kmの牛舎である。私は寺山テイクオフをパスして、低い高度でテイクオフ



一斉にパイロンへ向かう選手達！

の遙か前のリッジにへばり付く。1本目で使ったパターンをそのまま使ったら大成功で、そのまま上げ直して牛舎を取りに走る。しかし、牛舎パイロンがどれか判らなくなってしまい、走りながら写真を確認して目標を2つに絞る。パイロン間違いは嫌なので、その2つとも写真を撮ってからもう一度テイクオフ前に戻って上げ直す。次のパイロンの3番は、牛舎から西へ3.3KmのJRスクールハウス。寺山まで走ってから一度上げ直して走ろうと思ったが、時

間もだいぶ経っているのでイチパチで突っ込む。3番パイロンは、西向き斜面のトップにあるので廻り込めれば写真を撮って粘れるだろうとの目論見は的中し、ギリギリの高度で写真を撮って弱いリッジで流しながら寺山まで戻った。ここでは十数機が粘っていたが、風があると判断した私は前のパターンよりも一度と、再び寺山をパスしてテイクオフの遥か下に移動した。しかし、これが判断ミスで、そのまま粘り切れずにどんどん高度を下げ、ピン差しの出来る河原までも届かずに近くの用水脇にアウトランした。

結局今日は8名がゴールしたらしい。しかも、1本目にゴールした選手は誰もゴールしていないと言う波乱が起きた。今日トップでゴールしたのは小野寺選手。続いて高木選手や谷田選手、加藤豪君、北川選手らがゴールを決めた。私は12.4 Kmしか飛べず、順位がどうなるかは微妙な情勢だ。おそらく小野寺選手がトップに踊り出ただろう。また、女の闘いを制したのは遠藤選手。ゴールまであと数キロと言う所までせまる素晴らしいフライトで女子トップ。東北勢強し！！

いよいよ明日が最終日。日本選手権者は誰の頭上に輝くのか？！

◆ 11月23日（土） 成立！2本選手権？！



大きな瞳でフィルムチェック！の遠藤選手

朝からいい天気である。今日は最終日なのでいつもより早目に宿を出た。（いつも私と扇沢師匠はのんびりと寝坊組だったのだ）受付でテイクオフの優先順位を見ると53番？そんなに悪いの？と昨日の成績を確認に行くと「げげっ、ろっ、ろっ、ろくじゅうご位？パイロンミス？」やはり昨日迷った牛舎が違っていらしい。ここに来てなんたるミス。情けない。とほほ……。今日はとことんやるしかないですなァ！！昨日までの2本で小野寺さんがトップに踊り出た。扇沢さんは3位。今日飛べればまだまだどんでん返しがありそうだ！！

テイクオフに上がると南西の風。今日は渋そう。競技が出来るかどうか怪しい。早く出るしか方法のない私はせっせと準備にとりかかる。なんせ良くな

ってから並んだんじゃ絶対に出られない。早く行くしかないのだ。ダミーが出るが全く上がりずぶっ飛び状態。こんな状態がしばらく続く。昨日で女子1位を不動のもの？にしつつある遠藤さんが、テイクオフでぼーっとしていた私を見つけて慰めに来てくれた。こういう時は人の心遣いが身にしみますなァ。おまけに遠藤さんはちょー美人でイイ女なので嬉しくなってしまう。そうこうしているうちに「20 Kmタスクはあきらめたらしいぞ！！」と小野寺さんが情報を知らせてくれた。どうやら17 Km前後のタスクをやるらしい。

12時頃出たダミーが上がりはじめた。南が絡んでいるのか前の方に流されている。テイクオフがざわめき始め、選手ブリーフィングが始まった。タスクは最終日と言う事と条件が渋い事を考慮して、16.4 Kmのスピードランになる。デパーチャーの寺山タンク、鳥小屋、JRスクール、ゴルフ場クラブハウス、寺山タンク、麻生津橋ゴールであるが、状況は厳しい。12時50分にゲートオープン。扇沢選手、柏倉選手、西ヶ谷選手らが出るが状況は厳しく殆どぶっ飛び状態。私も早く出るしかないと思ったので（優先順位が53番なので）渋い状況を利用してゲートに入った。テイクオフしようとするが、

風が巻いておりスタ沈。この後ゲートクローズになってしまった。(風がフォローになった)

しばらくゲート内でウェイティングし、再びゲートが開いたので一発勝負に賭けるしかない私はテイクオフした。が、相変わらず状況は渋く、そのままぶっ飛んだ。この後少し良くなりかけたが状況は続かず、10 Km飛んだ選手は誰も居ないので不成立。この瞬間に小野寺選手の日本選手権者が決定した。

予定をくり上げて、午後4時から表彰式・閉会式が行われた。同時に95年度ポイントシステム上位の表彰も行われた。96年パラグライダー日本選手権を制したのは、小野寺久憲選手(秋田県)であった。小野寺選手は1本目はゴールを逃したものの、物凄い突っ込みであわや川沈?!と思う程のガッツで流れを引き寄せたのではないだろうか?さすがである。また、女子1位には遠藤律子選手(山形県)が表彰台に上った。遠藤選手は昨日の粘りと女の執念?で女子トップをものにした。そう言えば宿で湿布の匂いをぶんぶんさせていましたっけ?細い身体でガッツの飛び、お見事でした。本当におめでとう!!

私はパイロンミスが響いて53位、師匠の扇沢氏は3位となり、ともかく無事に大会を終える事が出来た事は何にも増して良かった。(松原さんが負傷したこともあるので)私にとっては不調な今シーズンを象徴するような日本選手権であったが、飛び自体は満足の行くものであったし何より楽しめた日選だった。勿論、反省しなければならない点は山ほどあるが、来シーズンへ向けての足掛かりになるような気がした大会だった。

こうして96年パラグライダー日本選手権は幕を閉じた。来年は岩手での開催である。また一から出直した。がんばろーっと!!



◆結果

96 PG日本選手権者	小野寺 久憲 (46)	1803	SECTOR
2位	安次嶺 純 (20)	1732	ESCAPE
3位	扇澤 郁 (36)	1697	SECTOR
4位	坂本 三津也 (??)	1667	ALTO
5位	武尾 拓 (27)	1607	ESCAPE
6位	海野 剛弘 (28)	1540	ESCAPE
女子1位	遠藤 律子 (26)	886	XYON

第3回

「荷物が担げなくなるまで飛ぶよ！！」

御福 隆行

Takayuki Gofuku

●当時はまだJMB立山が無かった！

TN…パラを始めた時期はいつ頃ですか？またきっかけは？

御福…始めたのは88年だけど本格的に始めたのは89年の秋頃から。88年の秋に大日岳に登った帰りに飛んでいるパラを見て興味を持ったんで。

TN…すぐに始めたんでしょうか？

御福…その当時はまだJMB立山が無くて半谷さんがたまたま講習に来てたくらいでした。最近の人は知らないでしょうけど、その頃ULと言うクラブがあって「うちは初心者講習やってますよ」と言うことだったので、その講習をやっている朴の木エリアで88年の秋に初めて飛びました。

TN…それからしばらく朴の木で飛んでたんでしょうか？

御福…朴の木は遠かったのでそうそう行けなかったんですが仲間に誘われて芦峯で飛ぶようになりました。が、芦峯はひどいところでテイクオフはアゲインストでもランディングはフォローになる為に怪我が多くて、私も捻挫をしたのでしばらくやってませんでした。

●サーマル山の上にも付けない機体でした

TN…当時の機体というのはどんなモノだったんでしょう？

御福…春に捻挫をしてからしばらくやってなかったんですが秋頃にまた飛びたくなってきて「よしやろう」と中古で買ったのがサーフエアーコンペと言う機体でした。ホントに四角い機体で滑空比は3ぐらい、買った時のふれこみが「ゴンドラで飛べばS字2回できますよ」でしたがとんでもない、サーマル山の上にも付けない機体でした。

TN…ホントに初期の頃の機体なんですね。御福さんはそういう時代からずーっと飛び続けているわけですがその中でも一番怖かったことはなんでしょうか？

御福…サーフエアーコンペじゃダメだと言うことで、その頃もうスクールを始めていた扇沢からイーデルのコーニッシュを買って、極楽から飛ぼうとした時でした。今では絶対に飛ばせてもらえないすごい強風だったんです。なんせあの飛ばないコーニッシュが立ち上げた途端に垂直上昇したんですから。それでしばらくはリッジソアリングできてたんです。金山と展望台の間を行ったり来たりしてました。

TN…コーニッシュで？

御福…そう。信じられないでしょう？でも調子よかったんですよ、一時間ぐらい飛んでたかな？それで「さ、帰ろうかな」と思ったら前に出なくなってしまう。そのうち進まないどころかバックしだして「360度ターンをしたら降りるかな」とやってみると上がっていく状態で。そうやっていると展望台を越えて南斜面の方まで入ってしま。バンザイしとけばよかったんでしょうけど当時はパイロット取りたてでしたからね、少しフレアーを当ててたんですよ。そのうち尾根のローターで潰されてまっさかさま。

TN……。

御福…回復させたらまた潰れて、回復、潰れと3回ほど繰り返した後、何とか回復して「こりゃあ斜面についたらまたローターにやられる」と考え、斜面を離れ金山に向かったら何とかなったと。

TN…それで無事帰って来れたんでしょうか？

御福…それが金山で結局ローターにハマって山沈しました(笑)

TN…怪我は無かったんですか？

御福…なし。

●フレアー当てたらストールに入った？！

TN…降りたくても降りられないって言うのは本当に怖いモノですが、怖かったことって他にもありますか？

御福…別の意味で怖かったのは「アキュート」。

TN…ファルホークの機体ですね。

御福…そう。めちゃくちゃな機体で「半額にしますからどうですか？」と言われて買ったんだけど…。

TN…半額ってだけでかなり怪しいですね。どこがめちゃくちゃだったんでしょう？

御福…アベックスって機体をただ薄翼にただで深く考えてなかったみたい。あのころちょっと薄翼ブームがあってそれにのってみたい。

TN…それで怖かったって言うのは？

御福…獅子吼で乗っていた時。ちょっと前縁が潰れてきたんでフレアーをちょっと当ててやった。

TN…当然ですね。

御福…当てた途端にフルストールに入った。

TN…(笑)

御福…ストーンと。「おおっ」と思ってバンザイしたら一回は戻った。と思ったらその反動でまたストールに。バンザイで直ると信じて十数秒そのまま落ちてたらしい。あとで見てた人から「わざとやってたんですか」と聞かれるくらい長かった。結局は回復してなんとか降りてきたんですけどね。あれが回復しなかったらパラは続けてなかったと思う。

TN…やはりそういう初期の頃の機体に怖い思い出が多いんですね。

御福…あのころは怪しい機体もあったし操作方法もはっきり分かってなかった時代でしたからね。今のグライダーではまずそういうことはないでしょう。

●たまにはバリオを置いて

風のを頼りに飛んでみるのもいい！！

TN…御福さんの目から見て最近のフライヤーに対して思うことは？

御福…私はほとんどバリオ無しで飛んでるんですが、皆さんもたまにはバリオを置いて風のを頼りに飛んでみるのも良いんじゃないかな？と思いますね。バリオはとっても便利で持つことは良いん

ですけど、あの音に頼らずに飛ぶのも良いもんですよ。

TN…なるほど。御福さんはどうしてバリオを持たないんでしょう？

御福…いや、当初とても高かったので買えなかっただけなんですけど、持たなくてもなんとも無いから無くてもいいわあって感じで(笑)

TN…(笑)バリオ無しでも大して変わりないですか？

御福…高々度まで上がってしまうと高度感覚が掴みにくいけど尾根近くでは変わりないですね。

●お客さんにパラグライダーの楽しさを伝えたい

TN…バリオを持つ人の多くが平均上昇率の方を頼りにするものですが御福さんの場合は獲得高度を知るのがバリオを持つと言うことですね。最後にこれからの目標をどうぞ。

御福…目標ですか？私は大会に出るわけでもないからね…。そうですね、私はスクールの手伝いでタンデムフライトをやっているんですけどそのお客さんにパラグライダーの楽しさを伝えることができたらいなと思いますね。初めて飛ぶ人に怖い思いをさせたりもうやめたいと思わせない様に心がけています。それに、風の掴み方がいまいち分かってないスクール生にも直にそれを教えることができるのがタンデムの良いところですからね。

TN…つまり御福さんの目標はこれから飛ぼうとする人の手助けをするって言うことですね。これからもまだまだ飛んでいくことと思いますが、いつまで続けるおつもりですか？

御福…いやぁ、荷物が担げなくなるまででしょう(笑)

TN…御福さんに話を聞くことで、いろんな先輩達がいろんな苦勞をしてパラグライダーを発展させてきたのだと改めて感じました。みなさんも、機会があれば話を聞いてみたら？きっと面白いタメになる話を聞かせてくれるとおもいます。御福さん、どうもありがとうございました。



@プロフィール@

氏名	: 御福 隆行 Takayuki Gofuku
年齢	: ?
飛行時間	: 約250時間(800本)
使用機体	: 主にタンデムフライト!!
目標	: お客さんにパラの楽しさを伝えたい!!

Team-C の



大会日記



Report:S.Takabayashi

皆さんこんにちは！出張で来ている横浜から“高山ホルンバレーカップ第2戦”についてレポートします。…と始めるはずだったのに、その2カ月の出張も終わり、延ばしてもらった締め切りも過ぎ…。会報の発行が遅れているのは多分私のせい？です。ごめんなさい。

★なぜ大会に出ることになったのか？

しばらくフライトすることから離れて下界の生活に埋もれていると、パラで飛んでいたことさえ夢のことに感じるのに、大会に出たことを考えると本当のことだったのかな？と思える程です。

こんな私が、なぜ大会に出ることになったのか。それは、白馬で開催されたレディースカップのパーティーでのこと。（皆さん、レディースカップもとっても楽しいです。みんなで出よう！ちなみに男性も女装をすれば出場可とか…？）ワインで（多分）酔っていた某H谷氏が「高山の大会に来たら？メラックも出ているよ」と言って下さるのでその気になってしまった訳です。しかし、大会に行ったらメラックは勿論、中級機なんて一機もいなかったよ～ん。本当に出てもよかったのかしら？と今でも心配です。

★パイロン巡りで気持ち悪くなるほど広い高山

さて、Team-Cの皆さんにまじって出発。初日は天候が悪くパイロン巡りをしました。高山のエリアは広い！パイロンもたくさんあって、車で回っていても気持ち悪くなるくらいの広さです。

高山のテイクオフは強風で、クロスでも大変と聞いていた私は、大会前に某T井さん（注、ティーいと読む）と粟巣野へ登りクロスの練習をしたのですが、ススキの茂みに突っ込んだのを皮切りにスタ沈の連続！「もうフロントで出る」と泣き泣きのところ、「ここでやめたら大会でプレッシャーになるからがんばれ」との優しい励ましにヨロヨロとやっとのことでテイクオフ出来たと言うこともあったので「こんなにたくさんパイロンを見てもテイクオフ出来ないかも」と悲しかったのでした。

それに、エリアの真ん中をすごい高圧線が走っていたり、平野部に出ると集落の家々に電線・果樹園・稲刈り前の田んぼで、山には発破かけて崩れている所が2カ所もあり、そんな所ばかり目についてとてもナーバスになりました。そんなパイロン巡りで印象的だったのがOパイロン。前回の大会で某H馬君（注、エッチまと読む）がよくわからなかったこのパイロンをしっかりと確認したことでした。明日からのフライトで、このOパイロンが大きなポイントになるとは想像もせずに…。

★難民生活

パイロン巡りの後、ランディング横の駐車場でテントを張りました。既に他にもテントが張られさながらキャンプ場です。皆さんから「どこに泊まっているの？」と聞かれると「そのへん」と駐車場を指せばよいわけです。こういうのをパラの世界（特にコンペ）では難民生活と呼ぶそうです。

次の朝、クラブハウスに行き外のホースで歯磨きしたり顔を洗っていると、準備万端のH谷氏や美由喜さんが「おはよう」とやって来ました。すんごくあせった！（難民生活で辛かったのは、この屋外にしかない洗面所とトイレでした。それ以外は難民も楽しいものでした）あせりつつも、呑気に朝ご飯していると、一便が選手を乗せて出発。にわかに周囲も慌ただしく緊張感も高まります。大会はこうでなくっちゃと思いつつ、動きにはついて行けないのでした。立山チームで一便に乗れたのは某S藤氏（注エスとーと読む）のみでした。一緒にご飯を食べていたのに。どうしたら素早く行動が出来るか？これは課題ですね！！

★立山美人応援団

テイクオフに上がる頃には心なしか緊張。しかし、立山美人応援チームが来てくれていてとても嬉しい。ブリーフィングがあってタスクが発表される。今日のファーストパイロンはあのOパイロン。いきなりあんなに遠いOパイロン！私は絶対ファーストパイロンへも行けないとがっくりきていたのです。ちびまる子ちゃんのマンガのようにたて線の影が入った顔をしてショックを受けているのを気遣ってかどうか判らないけれど、扇澤先生が立山チームを集めてミーティングをして下さる。基本的な注意事項や危険な所、上がるポイントなどを教えてもらう。それに高山のエリアを立山のエリアに置き換えて解説して下さい。美女平がテイクオフでOパイロンはと言うと、金山を越え和田川の向こうの尾根のまだまだ先にある。（遠いでしょ？）金山から先は未知の世界だけどころかなんとかなるでしょうとのこと。このミーティングは本当にありがたかった。扇澤先生、ありがとうございました。

★緊張の生理現象？

ゲートオープン時間が決まらずウェイティング。これが長くなると“女性フライヤーにとってこれが一番の悩みよね”と言っていた某美人コンペティターの言葉通り困ったことが…。寒いし、それなりに緊張しているし。みんなが「誰も見てないからその辺でしてくれば？」と言うが、その辺と言うのがみんなからは見えないけどその向こう側はとても開けているという所で「誰も見てないけど牛は見ていのよね」などと言ってグズグズしていたら、応援チームの面々が「下のトイレへ行った方が早いよ」と連れていってくれた。うれしい！！

スッキリして帰ってきたらゲートオープンしていた。あれま～。テイクオフ独特の緊張感から少しとに残された感じ。でもこれが私にとってはリラックスできてよかった。続々と出て行く選手達はとてもきれい。（何だか自分は選手というよりはオマケといった気分）オマケはオマケなりにしっかり飛ばうと思ってテイクオフするがラインが絡んですぐに取りやめる。応援チームがとんできて広げ直してくれる。涙が出るくらいうれしい。みんなにサポートされてこの大会に出れるんだととてもうれしくなる。とにかく安全に心配をかけないようにフライトしようと心に誓う。

★未知のフライト

リラックスして飛んでいたつもりが、テイクオフ前の中倉山の斜面について上げ返せるかという所では、足がガクガク震えていた。自分でも笑っちゃうくらい震えている。やっぱり大会は緊張するしこの

緊張感がたまらない魅力だと思う。Oパイロン目指し、谷を渡り、立山で言えば金山を越えて未知の世界へ。この未知の世界へのチャレンジも楽しく素晴らしい体験になった。絶対に行けないと思っていたOパイロンにも行けた。初めてアウトランディングもした。（私は小心者なので、立山でもメインのランディングにしか降りたことがなかった）

次の日もファーストパイロンはOパイロン。2日間ともフライト中はほとんどOパイロンを目指しており、高山と言うとOパイロンは切っても切り離せないくらいの関係で頭にインプットされることになった。（ちなみにタスクはOパイロン以外のパイロンもいっぱい使われてゴールした選手もいます）



難民生活での朝食の1コマ。楽しいわよ！！

★心配をおかけしました！！

2日目のアウトランディングは危険だった為近くで見ていたH谷氏が心配して降りて来て下さったとのこと。その時は、そうとは知らず、後から降りてくる機体を“上手だなあ”と呑気に見ていて黄色の機体でアエロタクトの文字入り。パイロットの影は黒くて大きい！もしや？と思っていたらその通りH谷氏であった。「大丈夫か？」と聞かれたのによく聞こえなくて、「なんですか〜？」「大丈夫で一す」と元気に答えてしまった。「こりゃダメだ、わかっちゃ

いない」と思われたことであろう。まったくその通りでわかっちゃいなかったのです。本当にご心配をおかけしました！！

H谷氏だけでなく、Team-Cの皆さんにもいろいろ心配をかけたためか、今回の大会ではTeam-Cのメンバーがとても不調で、初めて参加した私がいい思いをするという結果になってしまった。いつの日か誰からも安心して見てもらえるフライヤーになりたいが、そんなことはとても無理なような気がするので、心配かけつつ（誰が心配するか…と言う声も聞こえそうだが）それに感謝してフライトしていけたらと思います。

★最後に…

それから、今回とレディースカップで応援チームの存在はとてもうれしかった。みんなで大会に参加するのも楽しいし、出れない大会は応援チームとしてサポート？出来ればうれしいと思います。

ところで、レディースカップで顔見知りとなった人達と話をしていた（私の機体は相当目立つらしい！！）、「あそこで回していたね」とか「あの高度で谷渡りしたら降りると思ったけど飛んでいたね」とか言われるんだけど、私のほうは飛んでいると誰が誰だかわんない。こういうのはちょっと悔しい気がしませんか？忍者のように空にとけ込めるためにブルーの機体にしようと思ったのに間違いだったかもしれません。

最後に、大会に出ると顔見知りも増え、いろいろ話も出来て楽しいです。特に女の子フライヤーへ。一緒に大会に出ましょう！！楽しいよ！！

編集後記 96 Vol. 3

日本選手権も終わり、私のコンペシーズンは終わった。今年は不調（実力だろうが）だったがそれなりに得るものは多かった。来年も出来る限りコンペに出たいと思う。

さて、電子メールで問い合わせをいただいた。呉羽丘陵でモーターパラが飛んでいたとの事。調べてみると、とある行政主催のイベントでの飛行で許可されたフライトだった。（呉羽丘陵は富山空港の空港管制空域）こういうのも、県連とかが統括して情報を集約するような仕組みにするべきだと思う。あらぬ疑いをかけられる事を避ける意味でも行政を巻き込んだ情報インフラが必要だと感じた。関係方面の方にはぜひ頑張っていただきたい。

来年もみなさんにとってよい年でありますように…。

(Pikaichi)

前回、お休みさせてもらいました。原因は怪我です。8月、9月と一番いい時期を涼しい病院で過ごしました。私が言うのもなんですが今年はフライヤー全体的に怪我の多い年だったと思います。もう一度気を引き締めて飛ばないとダメだなあと思いました。来年はいい年にする為にも皆さんも一緒に気をつけましょう。ではよいお年を…。

(もう)

●話題の提供・ご意見・原稿の投稿は…

FAX (0762) 40-6692 藤野 光一宛
(0764) 81-1551 JMB立山パラグライダースクール内
ハミングバードPGC事務局広報宛

ファイルで投稿希望の方は…

3.5インチFD（1.2MBまたは1.44MBフォーマット）にTXT形式で保存された
ファイルを事務局へお持ち下さい！！

電子メールで投稿希望の方は…（インターネット、BBS経由）

以下のアドレスへメールして下さい。

QZI01576@niftyserve.or.jp 藤野 光一宛

mou@ecs.toyama-u.ac.jp 阪本 猛宛

TATEYAMA NOTAM

タテヤマノートム：第3号 1996年12月14日発行

■編集発行人

藤野 光一、阪本 猛

■発行所

ハミングバードPGC 広報委員会会報編集部

■事務局

〒930-14

上新川郡大山町本宮らいちょうバレースキー場 レストランふじ内

JMB立山パラグライダースクール ハミングバードPGC事務局